



学校だより 3月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和4年2月28日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

次のステップへ

校長 寺園 淳

抜けるような青空が広がっています。休み時間、ドッジボールや長縄跳び、鬼ごっこを楽しむ子どもたちの元気のよい声が校長室に聞こえてきます。その声につられるように校庭に足を運び、そこにはコロナ禍を物ともせず、友達とのかかわりを楽しむ子どもの笑顔があふれています。私が学校生活の中で、好きな時間の一つです。

石川小では毎週月曜日（行事によっては変更されることもありますが）に朝会があります。昔からあるように、朝会には校長が子どもたちに向けて話をする時間が設定されています。これも校長の大切な仕事の一つであり、子どもが関心をもてる題材を日頃から探すことを心掛けていなければなりません。私が見ていたテレビ番組で、カマキリの観察がとりあげられていたので、そのことを朝会で話すことにしました。「さあ、ここで問題です。カマキリには目がいくつあるでしょう。1番、2つ。2番、4つ。3番、5つ。さあ正解は……自分で調べてください。」次の瞬間、子どもたちから「えー」と大きな落胆の声が聞こえてきました。子どもが興味をもって自ら調べてくれることを期待して、あえて答えを発表せずに朝会を終わりました。その後、何人かの子どもが私のところにきて「先生が見ていたのは〇〇という番組でしょ。私も見ました。」と声をかけてきました。子どもたちが、関心をもって話を聞いてくれていることが嬉しかったです。今後も子どもがかかわりをもてる話題を探していきます。

6年生が卒業に向けての学習「卒業プロジェクト」に取り組み始めました。それは小学校生活のまとめとして、様々な取組を自分たちで立案し、実現させていくことです。しかし、そこには越えなければならないハードルがあります。それは計画を実行するために校長が出す質問をすべてクリアしないとその許可が得られません。例年、何回かのやり取りを繰り返す中で、6年生の計画は精度を増していきます。一人ひとりがそれぞれの学びに向け、互いにアイディアを出し合い、協力しながら実現に向けて準備を進めています。これが学校教育目標「石川魂」が目指す主体的な学びだと考えます。さらに、私は子どもたちが卒業式を「小学校生活最後の授業」としてとらえ、学んでくれることを期待しています。立ち姿や返事の声、移動のタイミングなど今まで身に付けてきた力を基に、その場で状況を判断しながら参加する授業だと考えます。卒業生一人ひとりが、6年間に培った力を背中で見せる姿から、5年生と4年生が来年度の石川小学校のリーダーとして学ぶことができる場でもあります。コロナ禍により従前の学びの場とは異なりますが、全教職員で知恵を出し合い、来年度の石川小をリードする子どもたちを育む学びの場を創造していきます。

本年度も残すところ一か月となりました。保護者の皆様、地域の皆様には子どもたちのためにご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。教職員一同、本年度のまとめに向け、力を注いでまいります。よろしくお願いいたします。